

第一章 緒 論

近代に於ける観光交通形式の急激な變化進展は實に驚異に値す可きものであつて、現在既に観光交通施設の計畫は風景計畫並に土木技術上重要な一部門を爲してゐる。地形上河川溪谷に富み古來獨特の山水美を以て世界に誇る本邦に於ては観光交通施設たる道路・鐵道等に伴つて橋梁の架設が頻繁に要求せられ、而も橋梁が風致上極めて重要な關係を有する場合が甚だ多い故に橋梁の美的取扱に關する問題は決して輕視し得ないのである。近代の交通機關は橋梁に對しても亦近代的構造を要求し吾々が折に觸れて見聞する範圍内に於てさへ極めて多數の近代的橋梁が架設せられてゐるのであるが、一般交通施設に在つては勿論、観光交通施設に於てさへ之に伴ふ橋梁の取扱が風致上甚だ拙劣な例を各所に見ざるを得ない現状であつて、少く共風景地或は觀光地と目さる可き性質の土地に於ては橋梁の取扱を風致上最も適切ならしめんとすることが既に一般輿論の要求する處となつて居るのである。此處に於て吾々は審美的考察に基き橋梁の美的取扱に關して何等かの指針となる可き事項を究明するの必要を痛感すると共に斯の如き要求が橋梁美學の研究と其の應用によつて相當満足せらる可きことを信じて疑はない。

茲に吾々が對象として取扱ふ可き橋梁は殆んど總ての種類のものを包含する譯であるが、風景型式並に其の利用型式の差異に依つて各種橋梁は自ら其の存在理由並に適用範圍を異にしてゐる。かゝる見地より橋梁を分類する時は、

1. 原始的橋梁
2. 古典的橋梁
3. 近代的橋梁

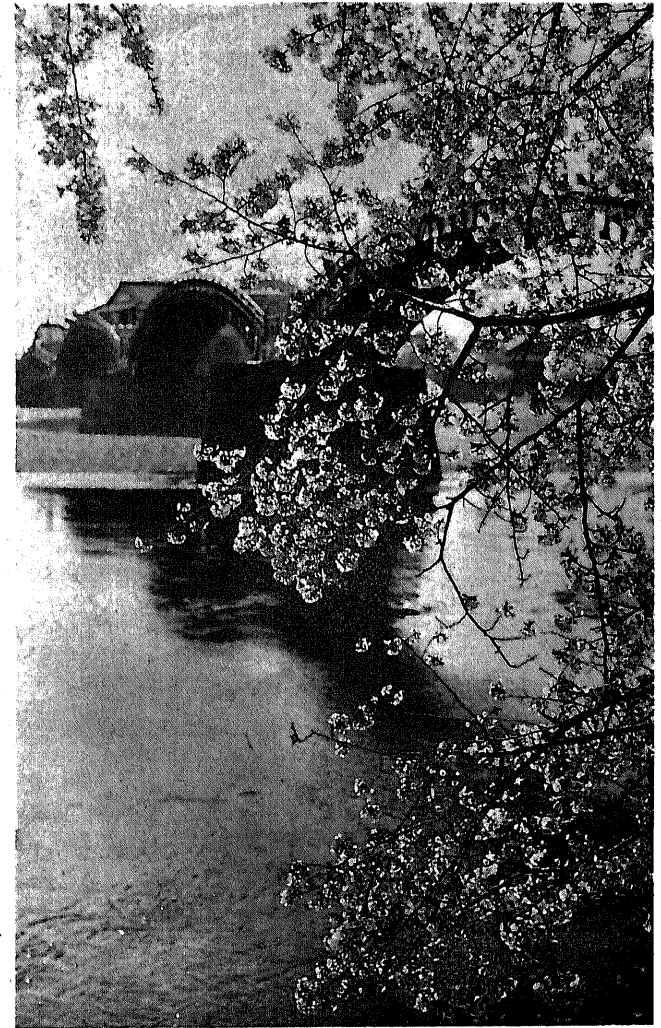
に大別することが出来る。原始的橋梁(圖1参照)は橋梁史上の原始的形體を有するもので、風景計畫上の適用範圍は主として原始的乃至自然的風景型式並に原始的利用型式に限られ歩橋として採用せらる可きもので



1. 十和田奥入瀬川の歩橋

ある。唯庭園に於ける場合と同様の意味に於て觀賞を主目的として採用せられる場合を無しとしないが、かゝる取扱を必要とすることは一般には極めて稀であると言つてよい。而して此の原始的橋梁は風致を破壊するが如き重大な關係を有すること少く、且つ又從來の造園學の範圍に於て庭園又は自然式公園内の橋梁として一應研究された問題でもある。又近代的橋梁意匠の一部に原始的橋梁の野趣を導入する場合もあるが、斯の如き橋梁は近代的橋梁として取扱ふのが至當である。古典的橋梁(圖2参照)は橋梁美學の對象としては重きを爲すもので、其の研究は興味深いものであると同時に残された問題も多い。然し乍ら風景計畫の見地よりすればやはり比較的極限された適用範圍を有するに過ぎず、一般に古典的乃至歴史的風景要素を以て構成された風景型式に對して採用せらる可きものなることに論議の餘地を認め無い。又近代的橋梁材料並に構造を以て古典的橋梁の意匠外觀を具備せしめた橋梁にも屢々遭遇するけれども、それは單に構築技術上の問題であつて、かゝる橋梁は審美的見地よりしても此の分類に於ては古典的橋梁の範疇に屬せしめるのが妥當である。古典的橋梁は

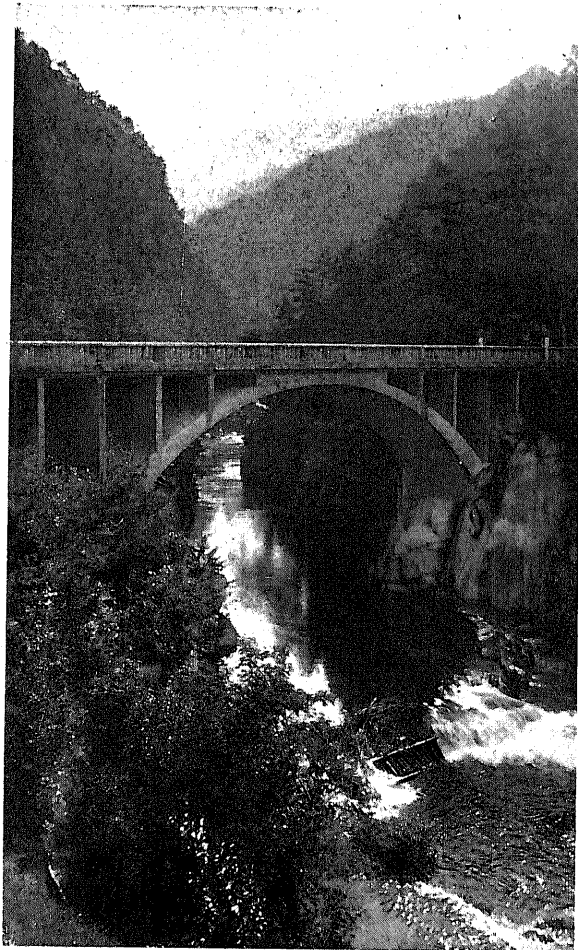
上記の如く自ら其の適用範圍が極限されて居り、而も其の取扱は其の環境を支配する風景要素の古典性の度合に堅く拘束せらる可きものであるから、常に各個の橋梁の取扱が當然決定せらる可き特定の規範を有するのである。之に反して近代的橋梁(圖3参照)は近代工學的構造を有する最も自由な橋梁である爲に風致上最も重要な關係に置かれると共に其の適用範圍は前二者に比して著しく廣汎に亘るのみならず、最多數の公衆と最も頻繁な交渉を保たねばならぬものであるから、橋梁美學の對象として最も重要な位置を占めるものである。



2. 岩國の錦帯橋

橋梁美學は橋梁てふ實用的目的を有する構造物に關する一種の應

用美學であつて、在來の橋梁美學は一般美學的基礎と工學的基礎の上に置かれてゐるが、斯の如き近代橋梁美學の沿革は極めて新しく、近々



3. 甲斐界仙峽の鐵筋混凝土拱橋

數十年を出でない。其の間に於て學說として重きを置かれて居るのはマイヤー Meyer, ジョルダン及ミッシェル Jordan u Michel, ウェーナー Wehner, ツッカー Zucker 等の所論であつた。之等を引繼いで最近に於てはハルトマン Hartmann 及ルクウィード Rukwied が秩序立つた橋梁美學の體系を築き上げてゐる。此の兩氏は工學者であるけれどもル・コルビュジエ Le Corbusier 其の他の建築家並に近代一般美學者の影響を多分に受けてゐること勿論で、其の橋梁美學體系は一般美學說、建築美學說及從來の橋梁美學說の検討に依る審美的觀念の確定と、此の觀念及工學的基礎を以てした觀察に基く各種橋梁の美的價值批判を骨子とし

數十年を出でない。其の間に於て學說として重きを置かれて居るのはマイヤー Meyer, ジョルダン及ミッシェル Jordan u Michel, ウェーナー Wehner, ツッカー Zucker 等の所論であつた。之等を引繼いで最近に於てはハルトマン Hartmann 及ルクウィード Rukwied が秩序立つた橋梁美學の體系を築き上げてゐる。此の兩氏は工學者であるけれどもル・コルビュジエ Le Corbusier 其の他の建築家並に近代一般美學者の影響を多分に

て構成されてゐる。従つて斯の如き在來の橋梁美學說の討究が橋梁の美的取扱を研究する上に役立つことは云ふ迄も無い。然し乍ら又其の美的取扱の全部に對して解決を與へるもので無いことも認識して置かねばならぬ。

橋梁の美的取扱には概略三つの方法がある。今之を、

- 1. 消去法
- 2. 融和法
- 3. 強調法

と名付けることとする。特定の橋梁の取扱に於て之等の方法の何れを採擇す可きかは、在來の橋梁美學の範圍を超へ、寧ろ風景計畫技術上の問題となるかも知れない。消去法は風景に對して橋梁の存在を消去して了ふもので、此の取扱は屢々極めて必要であり、殊に幅員に對して徑間の甚しく小さい橋梁の如き場合であるとか、或は一見橋梁のあり得可からざる關係の箇所に橋梁の架設を餘議なくされた場合等には特に必要であるに拘らず從來殆んど注意が拂はれて居ない。融和法は環境と橋梁とを完全に融合調和せしめる取扱方法で、多くの場合全體の風景に對する橋梁の美的關係を從的に保たしめるものである。特に自然的風景地に於ては風景の自然的要素が極めて本質的な美を有するが故に、橋梁に全風景を支配する程の力を與へて而も調和權衡を保たしめ得る様な場合は全く無いと云つてよいのである。此の場合には橋梁には從的であり且つ前景又は添景として役立つ程度の美と力とを與へ、又一方橋梁本來の目的たる橋上の通過と橋上よりの風景の觀賞を十分快適ならしめる必要がある。従つて此の融和法の取扱は最も普通に要求せられ、橋梁美學の應用が最も廣い範圍に行はれる。強調法は橋梁に依つて新しく風景の中心を創り出すもので、此の場合には橋梁其の物の美的構成が主要な役割を演じ、其の強調に依つて自然的要素の缺乏せる風致上無價値平凡な箇所にも新しい風景美

を創造することが出来るのである。従つて吾々は橋梁美學の研究に際して斯の如き各種の取扱方法に就ても適當な考察を怠り得ない事を知ると共に、橋梁の構築は如何にして美的ならしめ得るか、又橋梁は如何にして風致上の審美的關係を満足せしめ得るかの問題を解決せんが爲には極めて廣汎に亘る研究の必要を認めるのである。

上述の理由に依り著者は先づ研究の主たる對象として近代的橋梁を採り、之を論ずるに當つては在來の橋梁美學の範圍を擴大して風景技術的考察を多分に取入れた。即ち本著に於ては先づ第一に著者は斯の如き見地よりして橋梁に對する審美的基礎觀念の確定に努め、之を補ふに在來の橋梁美學思潮に對する批判を以てした。次で構造物としての橋梁に付き其の美的構成に關する原則的事項を掲げ、之が各種型式の橋梁に於て如何に作用し、如何に表現せられるかを研究し、進んで橋梁と其の架設地一帶の環境を含む所の綜合的視野の下に各種の橋梁を觀察して各の審美的特徴を指摘した。而て特に橋梁と風景との關係に付ては新なる考察を加へ、更に其所に生ずる極めて複雑多岐なる關係を單純化して、風景地に於ける橋梁或は觀光交通系統に屬する橋梁の風致的設計に關して何等かの方針乃至は標準となる可き事項を稍、具體的に指示しようとして試みたのである。